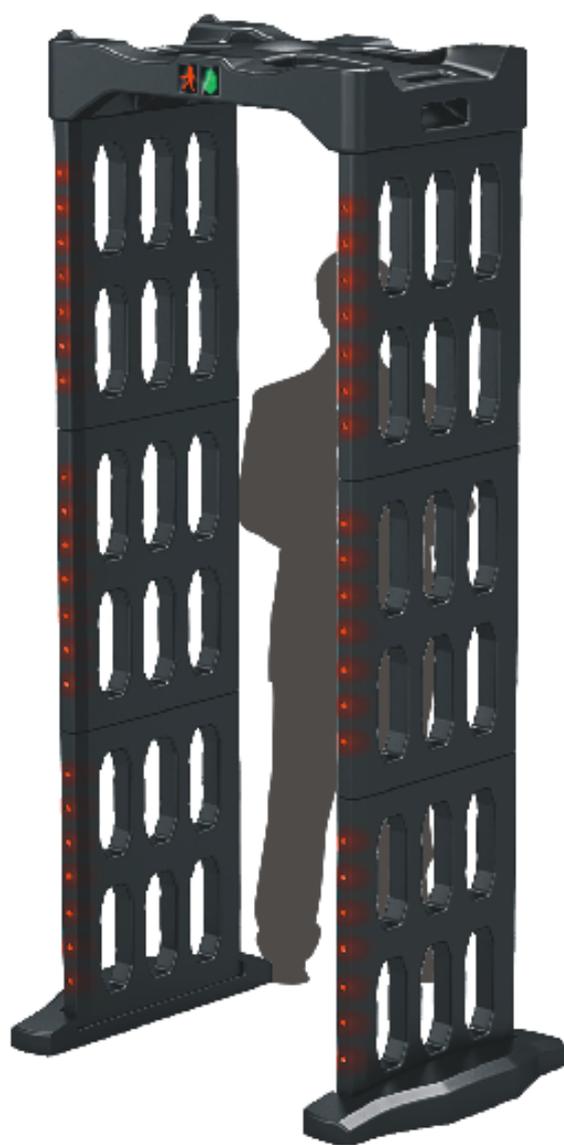


組立式金属探知機

VO-1313

操作説明書



【第1版】

綜合警備保障株式会社 2018年2月

目次

1	製品概要	4
2	使用上の注意	6
3	機器各部説明	7
4	組立手順	8
5	解体手順	10
6	起動と終了	12
7	人数カウント機能	13
8	ゲートの通過と検知	14
9	操作パネルの使用方法	15
10	管理パスワードの設定	17
11	感度調整	18
12	工場出荷時の設定に戻す	19
13	音量設定変更	20
14	動作周波数変更	20
15	簡易自動調整	21
16	複数台併設する場合	22
17	他の金属物と併設する場合	23
18	保管時の注意	24

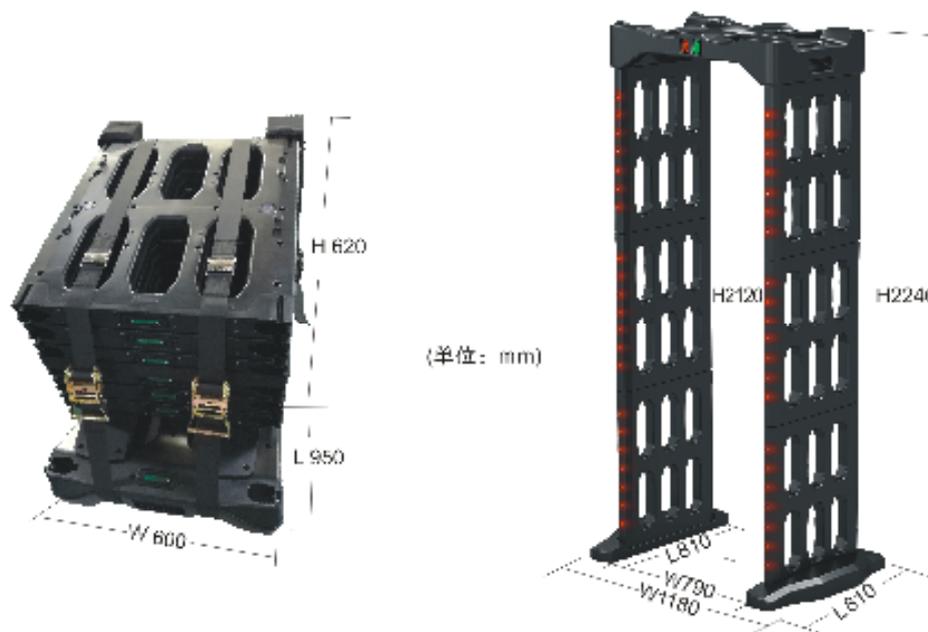
【梱包内容物】

	名称	数量	写真
1	V0-1313 組立式金属探知機 ・制御部（天板）× 1 ・検知パネル× 6 ・ベース× 2	1 式	
2	梱包用ベルト	2 本	
3	パネル保護カバー	1 個	
4	電源ケーブル	1 個	
5	電源ケーブル収納袋	1 袋	
6	消しゴム	1 個	
7	敷きマット	1 枚	
8	防塵カバー	1 枚	

1 製品概要

組立式金属探知機は、設置・撤去・移設の作業性に優れた門型金属探知機です。所持品検査、金属製品の持ち出し防止などに使用します。

本機器を通過すると、各設定に従い、金属物の検出結果をアラーム音とLEDで知らせます。



【製品の特徴】

- ・感度は0～300段階まで調整可能
- ・3つの独立した検知エリアで検知範囲をLEDにて表示
- ・自動校正機能および自己診断による故障表示が可能
- ・シャットダウン時に自動的に最後の設定を保存
- ・自動カウント機能を搭載
- ・操作キーとLCD画面を装備
- ・反応強度表示とLEDによる警報発生エリア表示
- ・音量の調節が可能
- ・特別な現場環境の設定を記憶することが可能
- ・解体時、一人で運搬可能
- ・5分程度で組立、解体可能
- ・特殊な使用環境に応じた設計が可能
- ・屋内、屋外で使用可能
- ・ABS ポリカーボネート樹脂材料を使用した耐衝撃、耐久性
- ・電池残量状態を操作パネルで確認可能

【技術仕様】

動作電圧	: AC 100V-240V
消費電力	: ≤10W
標準構成	: 電池 12V/7.5Ah×2 64.5mm×94mm×151mm (連続稼働 20 時間)
使用環境	: 温度 -20℃ ~ +70℃、湿度 0~95%
折畳寸法	: L 950 × W 600 × H 620 mm
トンネル寸法	: L 810 × W 790 × H2120 mm
外形寸法	: L 810 × W1180 × H2240 mm
梱包寸法	: L1065 × W 675 × H 705 mm
本体重量	: 35kg
総重量	: 56kg

2 使用上の注意

(1) 設置上の注意

- ・ 水平な場所に設置してください。
- ・ 設置床面が変形、振動しない場所に設置してください。
- ・ 本製品は屋内で使用してください。屋外に設置する場合は防雨、防風、日焼け防止のため、テント等を使用することを推奨します。
- ・ 高温多湿な場所を避けてください。

(2) 他の物品・装置との干渉

組立式金属探知機は、主に以下のような干渉を受けることがあります。設置後、各影響がないか動作確認を行って使用してください。

ア 機械的な干渉

ドアなどの可動する金属物から組立式金属探知機を1 m以上離して設置してください。

イ 電子的な干渉

エレベータ、モーター、テレビ、コンピュータ監視付きの電話回線、携帯電話などの電子製品が、組立式金属探知機に電子的な干渉を引き起こすことがあります。一定距離を離して設置してください。

電力線・通信ケーブルから離して設置してください。

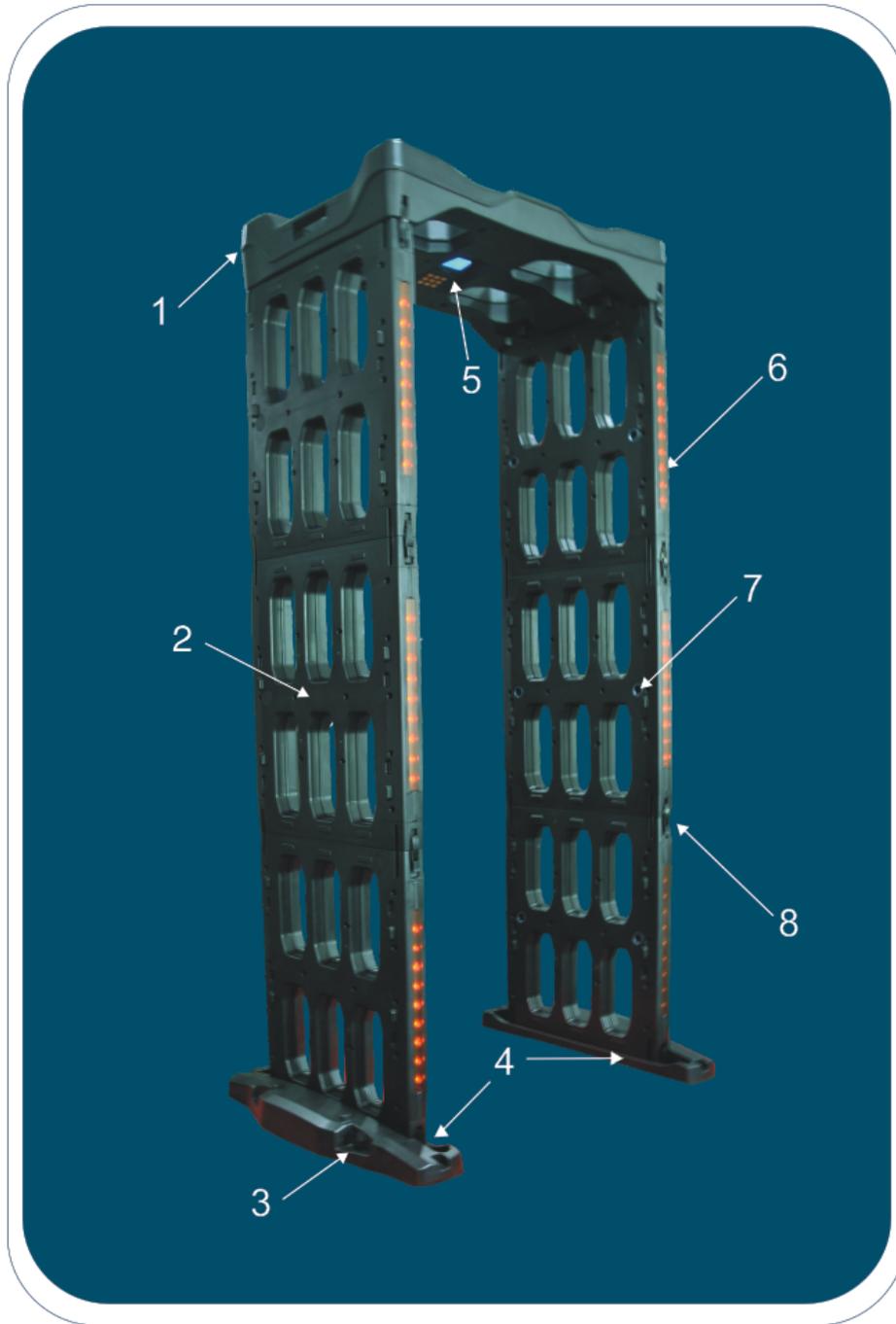
ウ 移動体による干渉

組立式金属探知機が道端に設置している場合、付近を通過する大型車両が検知機能に影響を与える場合があります。同機器を可能な限り道端から離して設置するようにしてください。

(3) その他

- ・ 各部品を分解しないでください。
- ・ パネル等の接続金具などで、けがをしないように気を付けてください。
- ・ 輸送時、パネル等の接続金具などの上に物をのせたり、強い力を加えたりしないでください。
- ・ 通過する際は本機にぶつからないようにして下さい。

3 機器各部説明



- | | | | |
|---|---------|---|-------------|
| 1 | 制御部 | 2 | 検知パネル（側板） |
| 3 | 電源差込口 | 4 | ベース（電池ボックス） |
| 5 | 操作パネル | 6 | エリア表示灯（LED） |
| 7 | 赤外線センサー | 8 | 接続金具（ロック） |

4 組立手順

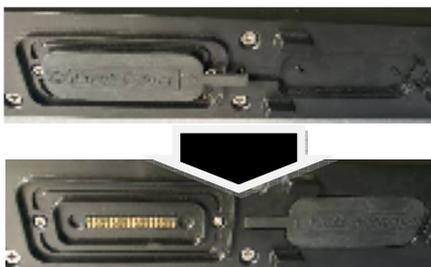
- (1) 水平な場所にカーペットを敷きます。



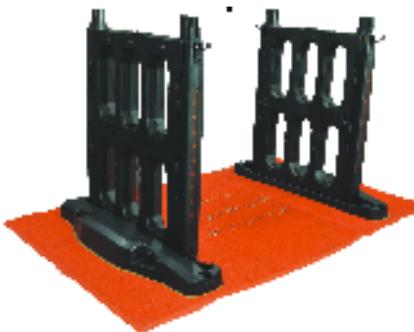
- (2) 左右のベースをカーペット上の絵の位置に置きます。



- (3) 検知パネルのコネクタカバーを外し、溝にはめ込みます。



- (4) 左右のベースに最下部の検知パネルを設置します。



- (5) 設置した最下部の検知パネルの上に、2段目の検知パネルを設置します。



- (6) 2段目の検知パネルの上に三段目の検知パネルを設置します。

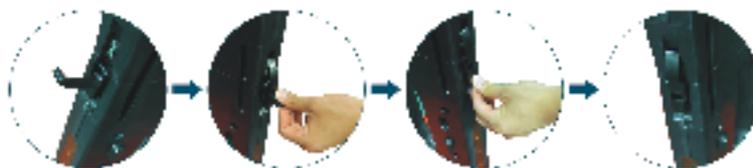


- (7) 制御部を左右のパネルの上に設置します。



(8) 全ての接続金具を締めてください。(16か所)

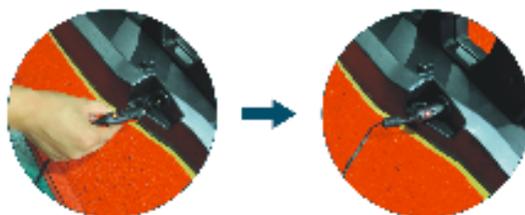
制御部・パネルの金具の締め方



ベースの金具の締め方



(9) 電源 (AC アダプタを) を左右の電源差込口に差します。

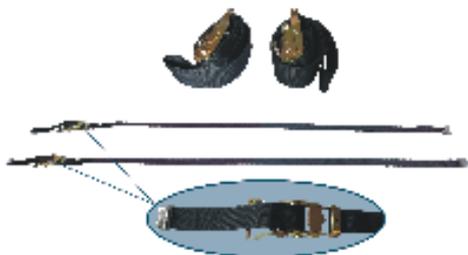


(10) 電源を投入し、感度設定を行ってください。



5 解体手順

- (1) 梱包用ベルトを伸ばし、床に置きます。バックルの表裏を下図のようにしてください。

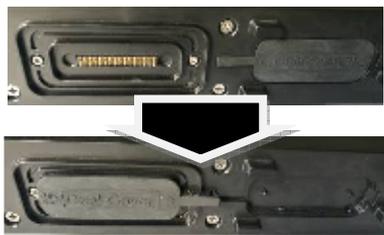


- (2) 制御部を梱包用ベルトの中央に置きます。



※取っ手とバックルを同じ方向に置きます。

- (3) 検知パネルのコネクタを掃除し、カバーをします。



- (4) パネル（6枚）を下図のようにまとめます。



- (5) ベース（電池ボックス）を2個共に裏返して制御部の上に嵌めてください。



- (6) 検知パネル6枚をベース（電池ボックス）の上に嵌めてください。



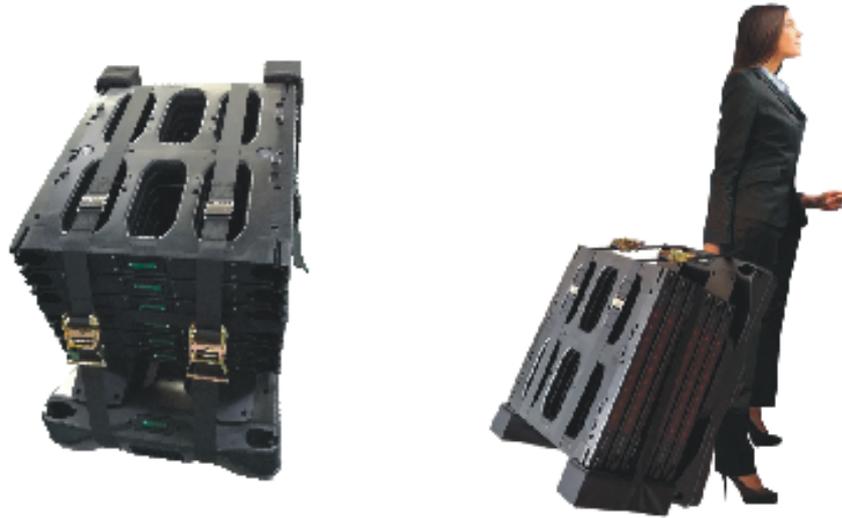
- (7) パネルの足に保護カバーを付け、ベルトを締めてください。
パネル金具はたたみ、カバー内に収めてください。



- (8) 保護カバーのベルトを締めてください。



(9) 梱包用ベルトを締めて、縛り具合を適宜に調整してください。



(10) 保管時は防塵カバーをしてください。



6 起動と終了

(1) 起動方法

- ア 「」キーを長押しし、電源を投入にします。
電源投入後、以下の画面が表示されセルフチェックが始まります。
セルフチェック中は、機器から離れてください。



SYSTEM SELF TEST

正常の場合、検知パネルのLEDが点滅後、以下の画面が表示されます。



SYSTEM SELF TEST
L1 L2 L3 OK
R1 R2 R3 OK

画面に「NG」が表示された場合、コネクタカバーを外したか、接続金具が締まっているか、パネル間の端子が汚れていないか確認してください。



SYSTEM SELF TEST
L1 L2 L3 NG
R1 R2 R3 NG

- イ 本機が正常に起動した場合、以下の画面が表示されます。



 52
PASS CNT: 0
ALARM CNT: 0

外部電源を接続した場合



 52
PASS CNT: 0
ALARM CNT: 0

内臓電池で動作している場合

(2) 終了方法

- 「」キーを長押しし、電源をOFFにします。

7 人数カウント機能

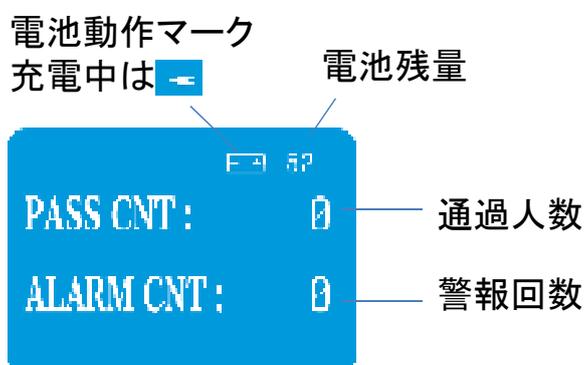
(1) カウント機能の概要

本機は、検知パネルにあるセンサーを使用して、通過人数および警報数のカウントを行います。

通過人数は、電源投入後にゲートを通過した人数をカウントします。途中で引き返した人数はカウントしません。また、警報数は、電源投入後に金属物を検知して警報を発生した回数をカウントします。

(2) カウントの確認

通常の運用画面でカウント数を確認できます。



(3) カウントのリセット

一度電源を切り再起動すると、通過人数、警報回数ともにクリアします。カウント数を記録したい場合は、電源切断前に確認してください。

8 ゲートの通過と検知

(1) ゲートの通過方法

本機の制御部正面 LED が侵入可表示になったことを確認し、ゲートを通常の歩行で通過してください。ゲート内で立ち止まったり、走ったりしないようにしてください。



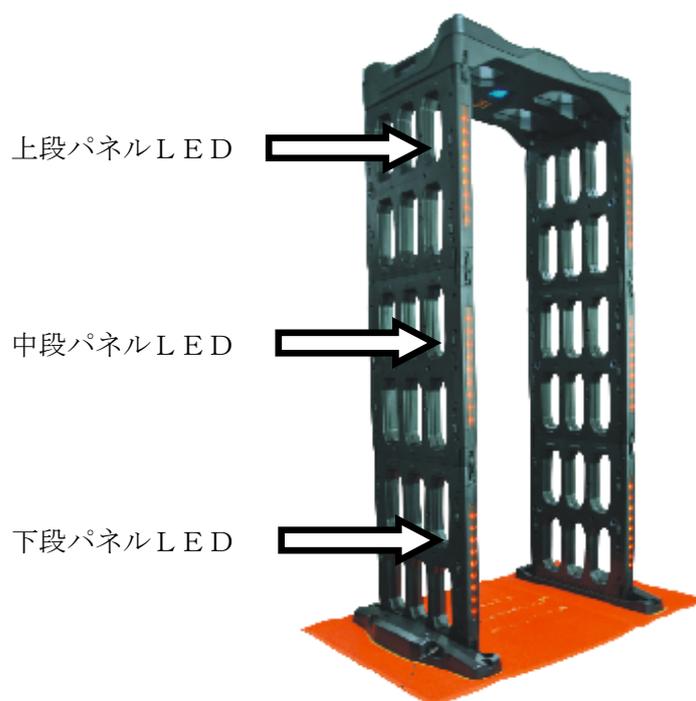
進入可 LED 表示

進入不可 LED

(2) 金属物を検知した場合

金属物を検出した場合、警報音が鳴り、検知した位置の検知パネル(上、中、下の3エリア)のLEDが点灯します。

感度設定に対して通過した金属物が非常に大きい場合、2つ以上のエリアのLEDが同時に点灯することがあります。



9 操作パネルの使用方法

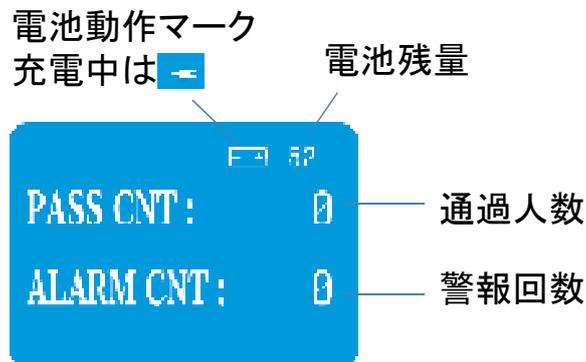
(1) 操作パネルの説明



- 1 「PROGRAM」キー：設定画面を表示します。
- 2 「QSS」キー：簡易感度設定を行います。
- 3 「L/-」キー：パラメータの設定変更。
- 4 「R/+」キー：パラメータの設定変更。
- 5 「▲」キー：設定画面表示後、項目を上に移動します。
- 6 「▼」キー：設定画面表示後、項目を下に移動します。
- 7 「」キー：電源のON/OFFをします。
- 8 「ESC」キー：設定メニューを終了します。
- 9 「ENTER」キー：設定中の内容を確定します。

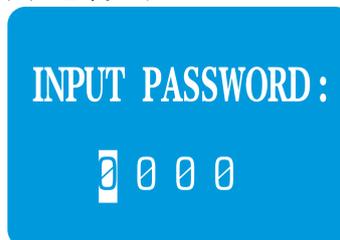
(2) 使用中の画面の見方

セキュリティゲートが正常に起動した場合、以下の画面が表示されます。



(3) 設定画面の操作方法

「PROGRAM」キーを押すと、以下のパスワード入力画面が表示されます。



「▲」、「▼」、「L/-」、「R/+」で桁の移動と数字の変更を行い、パスワードを入力した後、「ENTER」キーを押すと、機能設定画面が表示されます。

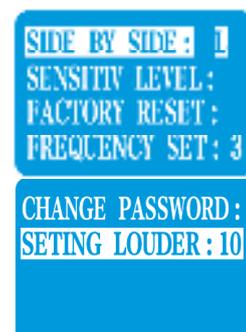


各項目を「▲▼」で選択し「ENTER」キーを押すことで、項目の詳細設定画面の表示または内容を確認します。各項目の値は、「L/-」または「R/+」を押すことで変更します。

変更をキャンセルする場合は「ESC」キーを押してください。

(4) 各設定項目の概要は以下のとおりです。

SIDE BY SIDE	送信パネル選択	L / R
SENSITIV LEVEL	感度設定	0-300 (0=不感)
FACTORY RESET	工場出荷設定に戻す	
FREQUENCY SET	周波数設定	1-10
CHANGE PASSWORD	パスワード変更	
SETTING LOUDER	音量設定	0-10 (0=消音)



10 管理パスワードの設定

管理パスワードを設定することで、感度設定などを勝手に変更されることを防ぎます。

機能設定画面にて、項目「CHANGE PASSWORD」を選択し、[ENTER]を押してください。



表示されたパスワードの設定画面で、4桁のパスワードを「▲」「▼」「L/-」「R/+」キーを使用して入力してください。



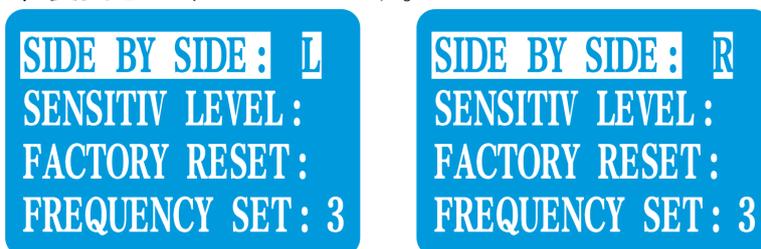
※ 工場出荷時のパスワードは「0000」に設定されています。

1 1 感度調整

(1) 送信パネルの選択

本機は、開口部中央の感度が低く、パネル両側に近づくと感度が高くなります。また、送信パネル側の感度が若干感度が高くなります。以下の設定で、送信パネルを左右どちらかにするか選択し、外乱の影響がある側から送信パネルを遠ざけることで、一定の誤報を抑制します。

ア 機能設定画面にて、「SIDE BY SIDE」の項目が白黒反転した状態で、「L/-」または「R/+」を押すことで右側・左側パネルを切り替えます。設定を確定するためには[ENTER]キーを押してください。「ESC」キーを押すと、変更をキャンセルします。



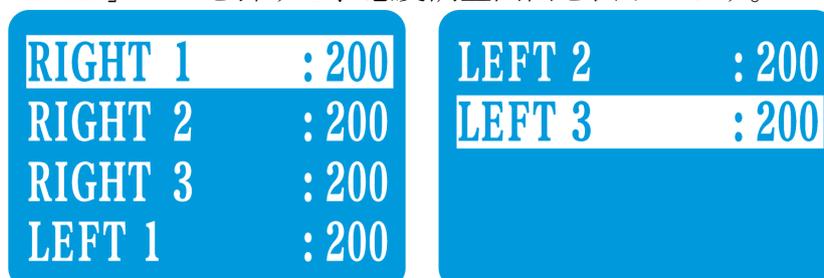
(2) 各パネルの感度調整

6枚の側面パネルごとに感度を0～300段階で設定を行います。

ア 機能設定画面にて、「▲▼」キーで感度調整「SENSITIV LEVEL:」の項目を選択してください。



イ 「ENTER」キーを押すと、感度調整画面を表示します。



ウ 「▲▼」キーで設定を変更したいパネルを選択し、感度数値を[L/-][R/+]で増減します。設定完了後[ENTER]を押して設定を確定してください。

設定をキャンセルする場合は[ESC]を押してください。

1 2 工場出荷時の設定に戻す

(1) 「PROGRAM」キーを押して、機能設定画面を表示します。



(2) 「▲▼」キーを押し、工場出荷時設定 (FACTORY RESET) の項目を選択します。「ENTER」キーを押すと、各種設定を工場出荷時の設定に戻します。



1 3 音量設定変更

- (1) 「PROGRAM」キーを押して、機能設定画面を表示し、「▲▼」キーを押し、[SETTING LOUDER]を選択します。
- (2) 設定値を[L/-][R/+]で増減します。設定完了後[ENTER]を押して確定してください。



設定値

- 0 : 消音
1～10 : 音量変更 (1 : 最小、10 : 音量)

1 4 動作周波数変更

- (1) 検知に使用する電磁波の周波数を変更します。
複数台設置する場合や周辺環境の電磁波の影響が考えられる場合、同数値の変更を試してみてください。
- (2) 「PROGRAM」キーを押して、機能設定画面を表示し、「▲▼」キーを押し、[FREQUENCY SET]を選択します。設定値を[L/-][R/+]で増減します。設定完了後[ENTER]を押して確定してください。

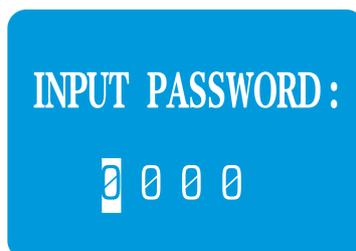


1 5 簡易自動調整

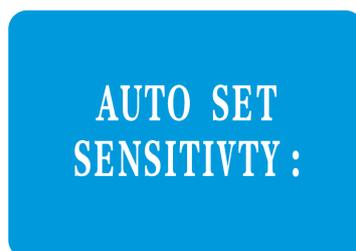
本装置には、検知したいものを通過させた際の感知強度を記憶しておくことで、おおよその感度調整を簡単に行うことができます。

(1) 簡易自動調整方法

ア 「QSS」キーを押すと、パスワード入力画面を表示します。



イ パスワードを入力すると、簡易自動調整画面が表示されます。



ウ パネルLEDが点滅を始め、設定完了のブザー音が鳴り、通常の運用画面にもどるまでの間、検出したい最小の検知物を身に着けて何度か門を通過します。

エ 設定完了後、「SENSITIV」の項目から設定値を確認し、微調整をして、必要な感度に設定を変更してください。

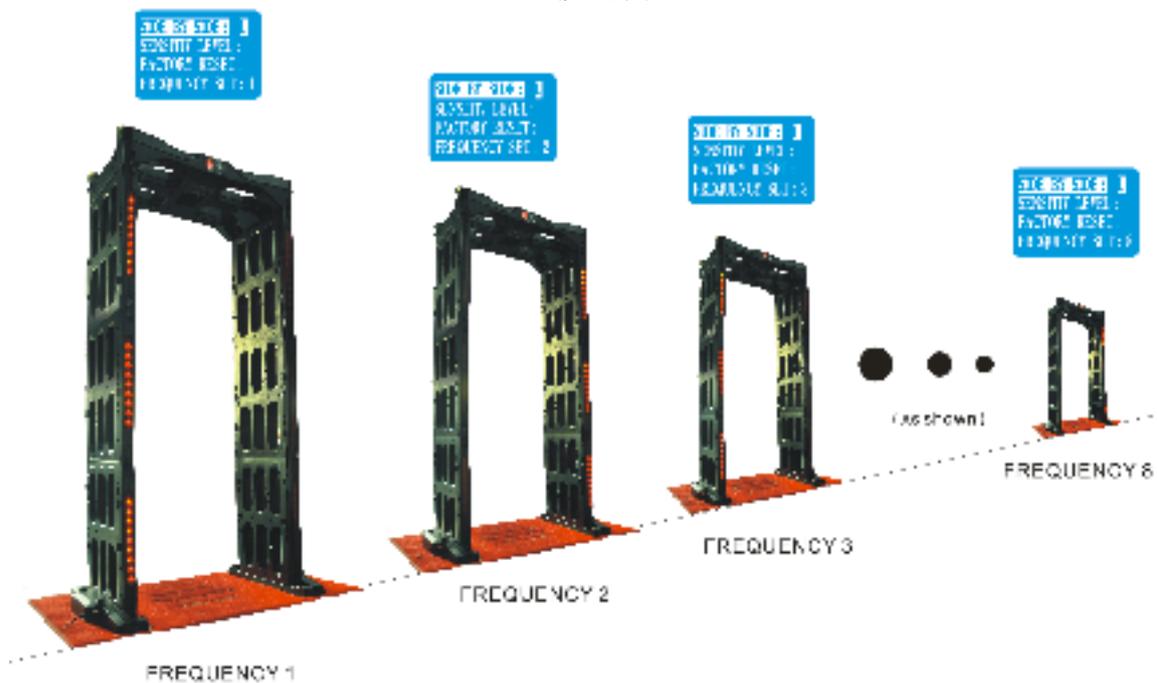
RIGHT 1	: 200	LEFT 2	: 200
RIGHT 2	: 200	LEFT 3	: 200
RIGHT 3	: 200		
LEFT 1	: 200		

1 6 複数台併設する場合

複数台並べて稼働する場合、近接する機器が同じ周波数の電磁波を使用して検知しようとする、互いに干渉を起こす場合があります。

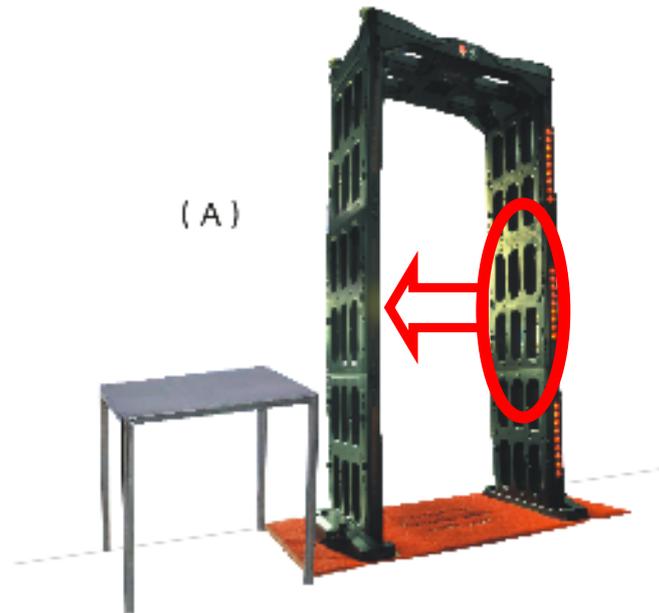
その場合、機能設定画面の[FREQUENCY SET]の数値を異なる値にすることで、機器ごとに異なる周波数を使用するように設定してください。

設定例

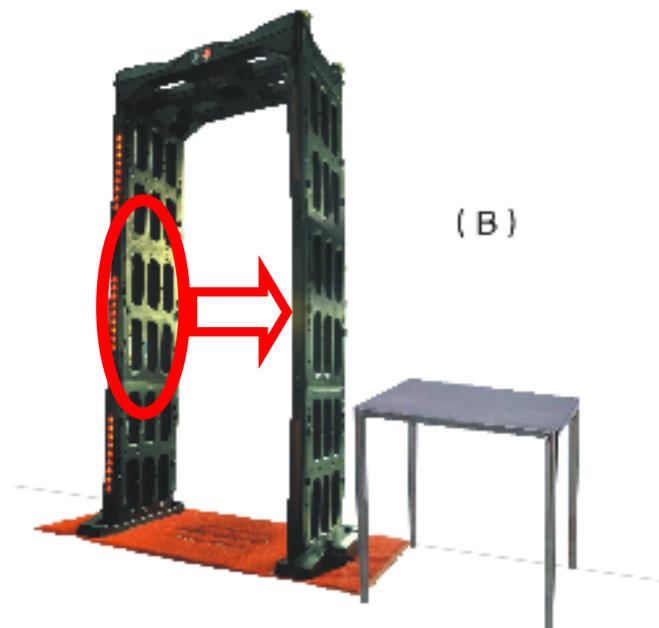


1 7 他の金属物と併設する場合

他の金属物と併設する場合、送信パネルが金属物から遠くなるように「SIDE BY SIDE」の設定を変更してください。



左側に金属物がある場合は、右側から送信を選んでください。



右側に金属物がある場合は、左側から送信を選んでください。

1 8 保管時の注意

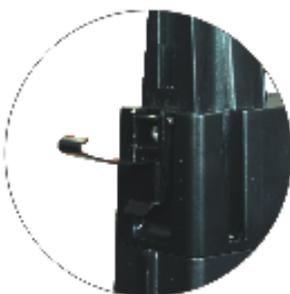
- (1) 湿気が多い場所、結露が発生しやすい場所での保管は避けてください。
- (2) コネクタ接点、およびスプリングコネクタの接続面に汚れが溜まっていないか確認してください。汚れがある場合、コネクタピンを破損しないように消しゴム等で掃除をしてください。



- (3) 折り畳むときは、スプリングコネクタに蓋を締めてください。防塵とともに破損を予防できます。



- (4) 接続金具（ロック）は湿気が多い場所または水濡れの場合は、必ず水分を拭き取った上で、錆止め剤を使うようにしてください。



- (5) 検知パネルにある赤外線センサーの蓋は定期的に掃除してください。



- (6) キャスターは常に清潔を保ち、必要であればベアリングの錆止めを行ってください。



- (7) 保管する時は、折り畳んだ状態で防塵カバーを被せ、ほこり等を避けてください。



- (8) 長時間保管して使わない場合は、3か月ごとに充電することを推奨します。1回あたり10時間ほどの充電が必要です。

